

広告 企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日、熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



1月17日、プレゼンテーションにて

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。福井県選出の匠、鬼瓦職人の北川順一さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をアドバイザーに迎え、隈研吾氏（建築家/東京大学教授）、生駒芳子氏（ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー）、下川一哉氏（意匠と匠研究所）らをサポートメンバーに発足。

昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家主権のチャリティイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もT.Vやwebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見せている。

2年目となった今年度は

は、全国47都道府県から計51名の若き匠を選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ね、途中経過のプロダクトを受けて行うエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの試作に取り組んだ。

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップ・バイヤー・メディア・デザイナー関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。また、商談会の終盤ではチームスジャパンとのコラボレーション企画「LIFE with NEW TAKUMI」新しい匠、新しい暮らし」が発表されるなど、プロジェクトも進化している。

受け継がれる職人技を未来につなぐ まだ見たことのない表情の鬼瓦を

身近に楽しむ 現代人の鬼瓦

鬼師である北川さんが造り出したのは、その名も「祥鬼猫—SYOUKINEKO—」。鬼の顔をした招き猫で、福を招き入れつつ、魔を払うという縁起のいい置物だ。鬼瓦と同様に、地元の粘土と専用の窯を使って焼き上げており、重厚感のある黒みがかかった銀鼠色の特徴。細かく、くっきりとした線を入れるのも鬼瓦ならではの、厳しい眼差しで悪しきものを祓う。口を大きく開けた鬼面からは気迫が滲み、ぐっと噛みしめた鬼面には



ふだん製作している鬼瓦

小型化と低価格化が求められた。小山氏のアイデアで「招き猫型のドアストップ」の製作に取りかかったが、「普段つくる鬼瓦とは、大きさや雰囲気、用途も異なるので、製作中は先が見えず、不安になることもありました」と北川さんは振り返る。



2017年8月、川又氏と
エリア・コンサルティングにて

プロダクトの完成には苦悩があった。魔よけとして屋根や玄関に飾られることの多い「鬼瓦」だが、住宅様式の変化とともに、普及率や知名度は年々衰退している。キックオフ・セッションでは、小山氏やサポートメンバーである川又俊明氏から「より多くの人の手にとってもらえるよう、現代に合ったアプローチが必要」という指摘があり、プロダクトの

試作品を提出したエリア・コンサルティングでは、川又氏から「招き猫の顔をもっと険しい鬼の顔に近づけることで、鬼師である北川さんらしさが出るはず」という意見があった。「招き猫と聞いて、可愛いコミカルな表情にとらわれていた自分にとって、思ってもみなかった言葉。面白い!」と思って、それならば鬼瓦の特徴を前面に出そうと考えました」と北川さん。また、「伝統ある鬼瓦の良さが出れば、実用性に強こだわらずとも人を惹きつけられる」という言葉もあり、形状を思い切って変更することに。自由な使い方を模索しながら、インテリアとして成り立つようにした。

こうして完成した、魔よけの意味も込められた「祥鬼猫」は、他に類をみない北川さんだからこそ生み出せるプロダクトになった。

多くの交流からみえた 新しい鬼師の道

北川順一 福井／
鬼瓦職人「鬼師」



製作中の北川さん

「さまざまな分野から意見を聞くことで、自分では思いつかない新しい考え方を知ることができた」と話す北川さん。技術面に関しては師匠に恵まれているが、従来の用途とは異なるプロダクトを造り出したいと思ったとき、自分だけで新たなアイデアを出すには限界があった。製作に行き詰まるなか、背中を押してくれたのが、デザイナーをはじめとするこれまで関わることのなかった分野の人たちだったという。

「鬼の顔こそが北川さんらしさ」というアドバイスは大きなターニングポイントになった。また、「現代ではあまり見かけなくなってしまうが、鬼瓦には素晴らしい技術とストーリーがある」という川又氏の言葉は自信となり、プロダクトには鬼師としての技術と、鬼瓦に込められた意味を盛り込めるよ

う、何度も試作を重ねた。「これまでお客さんとして関わりのなかった若い人たちにも、気軽に触れてもらいたい」と北川さん。そう思えたのは、新たな取り組みをする他の職人の姿から刺激を受けたからだ。「プロジェクトを通じて、現代の多様なニーズについて考えるきっかけにもなった」と語る。



完成プロダクト「祥鬼猫—SYOUKINEKO—」

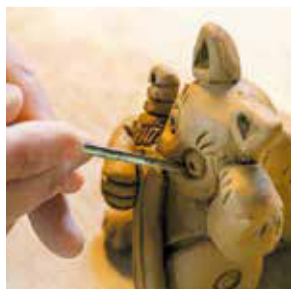
「祥鬼猫—SYOUKINEKO—」
展示会決定!
期間：4/14(土)~22(日)
会場：レクサス福井ショールーム
(福井市大和田2-2002)
4/14、22には北川さんにお越しいただきます。詳しい時間や内容はレクサス福井までお問い合わせください。

伝統は、新しい挑戦によって未来へと続く。北川さんの次なる挑戦は始まっている。



北川 順一
福井/鬼瓦職人「鬼師」

23歳の時に北川鬼瓦に弟子入りし、祖父、母より立川流(たてかわりゅう)鬼瓦の技術指導を受ける。32歳の時に低迷する伝統工芸の未来を憂い、通販サイトを立ち上げ販路の拡大に取り組み始める。また同じ頃から地域の催し(越前モノづくりフェスタ等々)にも参加を始めるなど、先代から継承した確かな業とこだわりで、北川鬼瓦の魅力を発信している。



製作の様子